

ボール運動系「ボールゲーム」「鬼遊び」「ゴール型ゲーム」「ゴール型」

1 「発達の段階のまとめ」と「領域及び内容の系統」

発達の段階	各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期
学年	小1・小2	小3・小4	小5・小6
領域	ゲーム	ゲーム	ボール運動
内容	ボールゲーム 鬼遊び	ゲーム ゴール型	ゴール型
例示	簡単なボール操作 ボールを持たないときの動き 逃げる・追いかける	コート内で攻守入り交じつ てのゲーム	ボール操作やボールを受ける ための動きによる攻防
	ボール遊び ボール投げゲーム ボール蹴りゲーム 鬼遊び	手を使ったゴール型ゲーム 足を使ったゴール型ゲーム <易しいゲーム 小学校解説P51>	バスケットボール サッカー (ハンドボールなども可) <簡易化されたゲーム 小学校解説P73>

2 ゴール型の特性(魅力)

ボールゲーム 鬼遊び (小1・小2)	勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することを楽しさを味わうことができる。
ゴール型ゲーム (小3・小4)	集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を立てたりすることを重視しながら、簡単な動きを身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことができる。
ゴール型 (小5・小6)	ルールや作戦を工夫して、集団対集団の攻防によって競争することを楽しみや喜びを味わうことができる。コート内で攻守が入り交じり、手や足などを使って攻防を組み立て、一定時間内に得点を競い合うことを課題とする。

3 指導上の配慮事項

- 【小学校】** ○互いに協力し、役割を分担して練習を行い、型に応じた技能を身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心になる。(小解説P18)
- 公正に行動する態度、特に勝敗の結果をめぐる正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。(小解説P17)
- 【小1・小2】** ○いろいろなボールを投げたり、ついたり、捕ったりしながら行う的当て遊びやキャッチボールを取り入れて指導する。また一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則の鬼遊びを取り入れて指導する。(小解説P33・34)
- 【小3・小4】** ○コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足で操作したり、空いている場所に素早く動いたりしてゲームをする。ゴールにシュートをしたり、陣地を取り合って得点ゾーンに走り込んだりするゲームをする。(小解説P51)
- 【小5・小6】** ○攻撃側プレーヤー数が守備側プレーヤー数を上回る状態をつくり出したり守備側のプレーを制限したりすることにより、攻撃しやすく、また得点が入りやすくなるような簡易化されたゲームをする。(小解説P73)

【安全面】

- ・場の危険物を取り除いたり、用具・設備の安全を確かめたりする。
- ・投げる・蹴る・捕球するなどのボールコントロールの能力差が大きなチーム同士の対戦において、スピードの速いボールに対する対処について配慮するようにさせる。

多くの領域の学習を経験する時期	卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続 することができるようにする時期	
中1・中2	中3	高校入学年次
球技	球技	球技
ゴール型	ゴール型	
基本的なボール操作と仲間と連携した動き ゴール前での攻防	仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を 作りだしたりする攻防	
バスケットボール ハンドボール サッカー ＜基本的なボール操作や仲間と連携した動きでゲームを展開する 中学校解説 P83＞	バスケットボール ハンドボール サッカー ＜作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームを展開する 中学校解説 P89＞	

2 ゴール型の特性(魅力)

ゴール型 (中1・中2)	ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定 時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。 攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防 を展開できる。
ゴール型 (中3)	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入など から攻防を展開できる。 仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだしたりして攻防を展開でき る。

3 指導上の配慮事項

【中学校】

- 「ゴール型」については、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から運動種目を取り扱う。
(中解説 P98)

【中1・2】

- 攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前の空間をめぐる攻防を展開
できるようにする。(中解説 P84)

【中3】

- 仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだしたりして攻防を展開できるようにする。
- ボール操作とボールを持たないときの動きに着目させ、学習に取り組ませる。(中解説 P90)

【安全面】

- ・場の危険物を取り除いたり、用具・設備の安全を確かめたりする。
- ・場に適したシューズを履く、爪が伸びていないか確認するなど、服装面の点検をする。
- ・投げる・蹴る・捕球するなどのボールコントロールの能力差が大きなチーム同士の対戦において、スピ
ードの速いボールに対する対処について配慮するようにさせる。


小1・小2 「ボールゲーム・鬼遊び」

身に付けさせたい内容	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるボールゲーム、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの鬼遊びを楽しく行い、その動きができるようにする。 ○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 ○簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・物やマークなどの的に向かってボールを投げたり蹴ったりすること。 ・攻めと守りを交代しながらボールを投げたり蹴ったりすること。 ・攻めと守りが入り交じりながらゴールにボールを投げ入れたり蹴り入れたりすること。 ・一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則の鬼遊びをすること。 ・工夫した区域や用具で楽しく鬼遊びをすること。
	態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組むこと。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よくゲームをすること。 ・用具の準備や片付けを、友達と一緒にすること。 ・危険物が無いか、ゲームをする場が十分あるかななどの場の安全に気を付けること。
思・判	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びの行い方を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選ぶこと。 ・ボールゲームや鬼遊びの動き方を知り、攻め方を見付けること。 	


学習活動例


ボール遊び

○ボールを使っているいろいろな遊びをしよう



ねらったところに上手に転がせるかな？

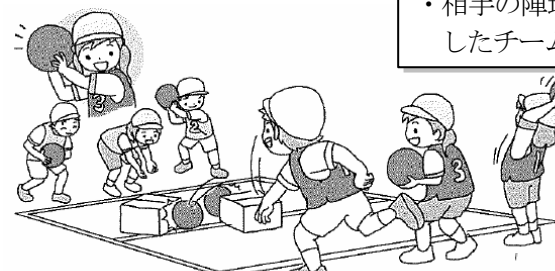




投げる、つく、捕る、蹴る、止める、転がす、当てるなど様々なボール操作をする。

ボール投げゲーム(★)

○段ボールの的当てゲーム




・ボールは1人1つずつ。
・線の外から投げる。
・相手の陣地に箱を多く動かしたチームが勝ち。

ねらった円の中に、両手や片手でボールをつけてみよう。

・両手や、片手で投げてみよう。
・ねらった箱を最後までよく見て投げよう。

○攻めと守りに分かれた的当てゲーム



・1チーム4人ずつ。
・攻めと守りに分かれて、交代する。
・コート外の攻めの方は、中央の的に当てると1点。ボールは1つ。
・得点の多いチームが勝ち。

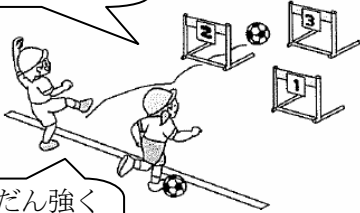
声を出し合って、上手にパスを回そう。

的が見えたらシュートをねらおう。

○1 分間パス競争

ボール蹴りゲーム

ねらったところに蹴れるかな？



だんだん強く蹴れるように練習しよう。

足で止めてから、蹴り返そう。慣れてきたら止めずにそのまま蹴ってみよう。



・1分間で、できたパスの回数を競う。

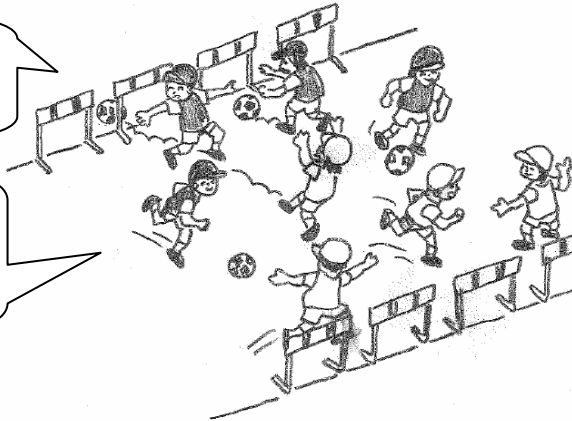
相手が止めやすいところに蹴ろう。

ボールを操作できる位置に動く。

○ミニゴールがいっぱいのボール蹴りゲーム

敵のいないゴールや、近くのゴールをねらおう。

1つのボールばかり見ていないで、他のボールのことも気にかけてよう。



- ・1チーム4人ずつ。
- ・ボールは4個。
- ・最初にボールを持つ人は両チーム2人ずつ。
- ・どのミニゴールに入れてもよい。
- ・守るときも手は使えない。

鬼遊び

○手つなぎ鬼ごっこ

上手によけながら逃げてみよう。

一定の区域で逃げる、追いかける、身をかかわす、鬼のいない場所へ移動する、などの動きをする。

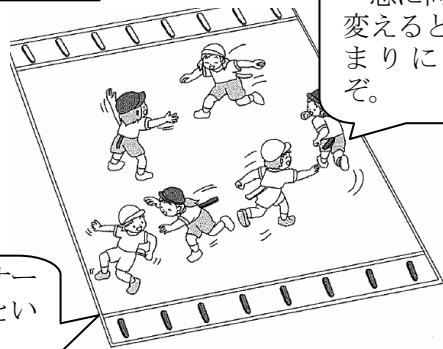
鬼が4人になったら、2人ずつに分かれよう。



鬼は、コーナーに追い詰めるといよ。

○しっぽ取り鬼ごっこ

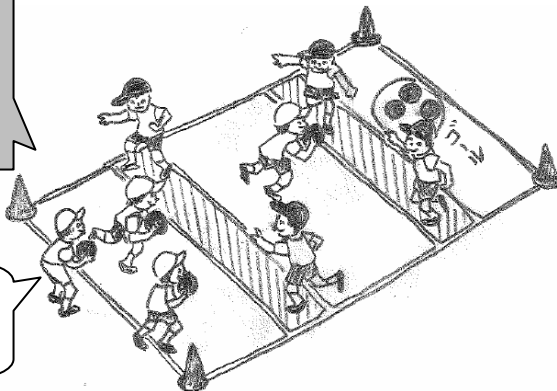
急に向きを変えようとつかまりにくいぞ。



○宝(ボール)運び鬼

2・3人で連携して、相手をかわしたり、走りぬけたりすること。

走るコース、走りこむタイミングを工夫しよう。



- ・ゴールの円の中まで、鬼にタッチされずにボールをたくさん運んだチームが勝ち。
- ・鬼にタッチされたらスタートラインまで戻る。

小3・小4 「ゴール型ゲーム」

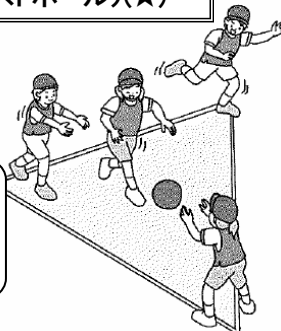
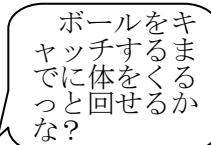
ねらい	<p>○基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームを楽しく行い、その動きができるようにする。</p> <p>○運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p> <p>○規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。</p>
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足で操作したり、空いている場所に素早く動いたりしてゲームをする。 ・ゴールにシュートをしたり、陣地を取り合って得点ゾーンに走り込んだりするゲームをする。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型ゲームに進んで取り組むこと。 ・規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れること。 ・用具の準備や片付けを友達と一緒にすること。 ・場の危険物を取り除いたり、用具の安全を確かめたりすること。 <p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型ゲームの行い方を知り、楽しくゲームを行うことができるプレイヤーの数やコートのつくり、プレー上の制限、得点の仕方、ゲームや練習をするときの規則などを選ぶこと。 ・ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てること。

手を使ったゴール型ゲーム(ポートボール, セストボール)(★)

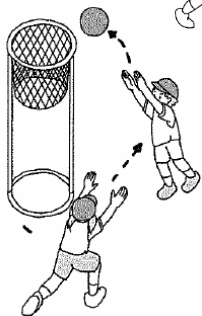
学習活動例



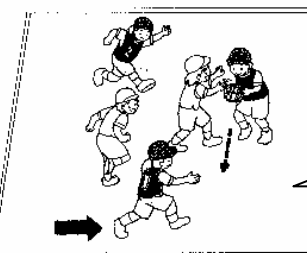
○3対1のパスゲーム



- ・攻めが3人、守りが1人。
- ・攻めの方は、三角形の線上のみ動ける。
- ・1分間に何回パスができるかを競う。

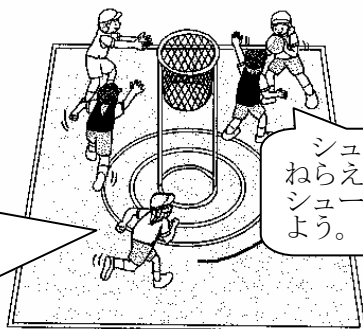
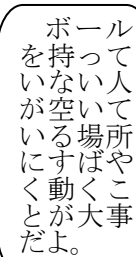


○3対2のパスゲーム

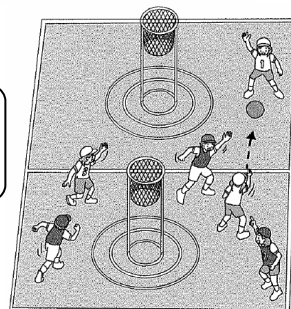


- ・空いている場所にすばやく動いてパスをもらおう。

○セストボール



- ・シュートがねらえるならシュートしよう。



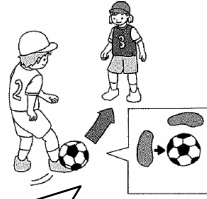
- ・空いている場所にすばやく動く。
- ・ゴールに体を向けてシュートする。

足を使ったゴール型ゲーム(ラインサッカー)

○シュート練習

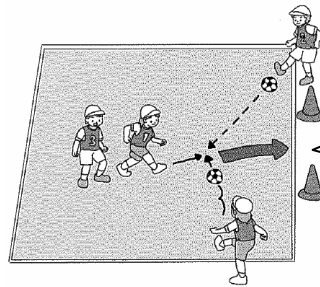


○蹴る練習, 止める練習



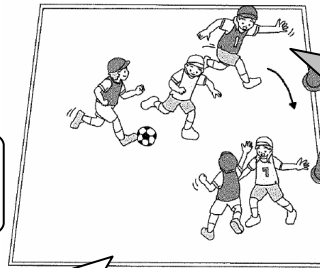
飛んできたボールや転がってきたボールを足の裏で止めよう。

軸足を蹴る方向に向けて、足の内側で蹴ってパスしよう。



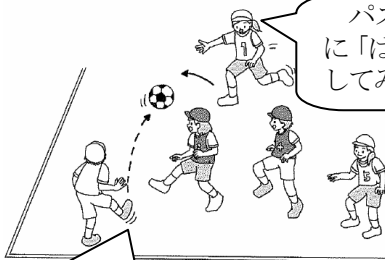
いろいろなところから来るパスを、ねらったところにシュートしてみよう。

○3対2のゲーム



- ・空いている場所にすばやく動く。
- ・ゴールに体を向けてシュートする。

○3対2のパスゲーム



パスがほしいときに「はい。」と声を出してみよう。

ゴールが見えていたら、シュートを第一に考えよう。

仲間が動く前の場所にパスを出そう。

障地を取り合うゴール型ゲーム(フラッグフットボール)(★)

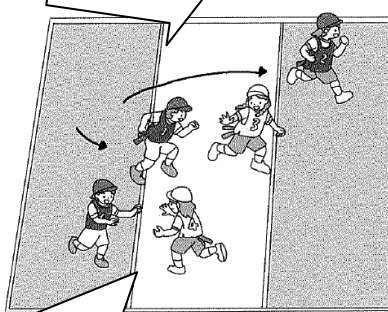
○手渡しパス練習

下から両手ですばやくパスを回していこう。最後まできたら反対向きに戻していこう。



- ・仲間と相談して作戦を考える。
- ・空いている場所にすばやく動く。

守りゾーン

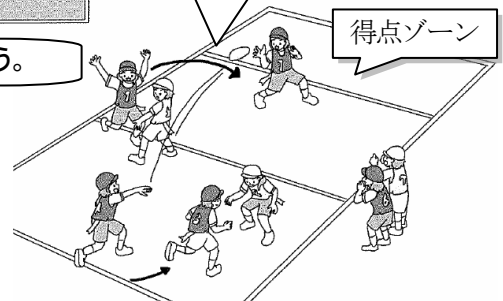


- ・攻めが3人、守りが2人で行う
- ・守りは、真ん中のゾーンの中だけで守る。
- ・攻めは、タグを取られずにボールを拾って戻ってくる。

仲間と連携した攻め方を考えよう。

空いている空間に走りこんでパスをもらおう

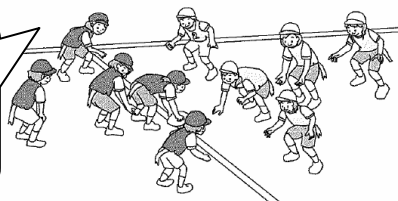
○3対2のパスゲーム



得点ゾーン

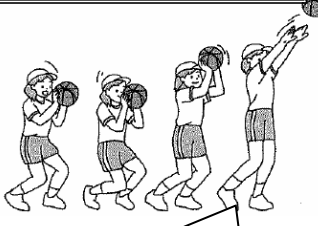
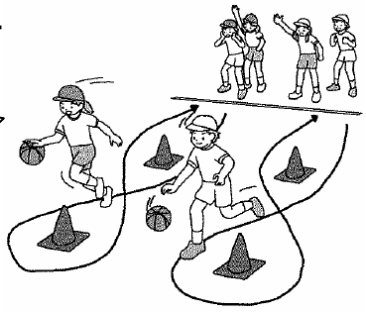
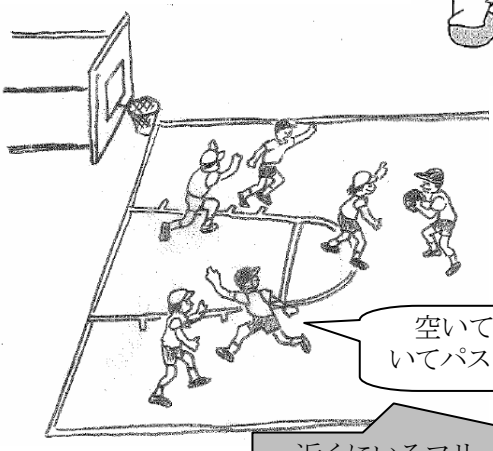
○5対5のゲーム

走る攻めか、パスする攻めかをそのつど相談して決めよう。



- ・攻撃は、また下からボールを後ろの人に渡して始める。
- ・前方の味方にパスをするか、ボールを持って走るかして、得点ゾーンまでボールを運ぶと得点。

小5・小6 「ゴール型」

<p>ねらい</p>	<p>○簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をする楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>○運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。</p> <p>○ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。</p>
<p>身に付けさせたい内容</p>	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃側プレイヤー数が守備側プレイヤー数を上回る状態を作りだしたり守備側のプレーを制限したりすることにより、攻撃しやすく、また得点が入りやすくなるような簡易化されたゲームをすること。 ・投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶといったボール操作をしたり、ボールを保持する人からボールを受けることのできる場所に動いたりして、攻守入り交じったゲームができること。 ・攻撃側にとって易しい状況の中で、チームの作戦に基づいた位置どりやボール操作によって得点できること。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型のゲームに進んで取り組むこと。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをすること。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たすこと。 ・場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ること。 <p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型の楽しいゲームの行い方を知り、プレイヤーの数、コートの広さ、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選ぶこと。 ・チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てること。
<p>学習活動例</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>バスケットボール(★)</p>  <p>ひざを曲げて、ゴールをよく見て、膝と腕を伸ばしながらシュートしよう。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○ ドリブルリレー</p>  <p>コーンをジグザグに回るとき、できるだけ大回りにならないように。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>○ ハーフコートで3対3</p>  <p>空いているところに動いてパスをもらおう。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>どうしたら得点できるか、チームの作戦を相談しよう。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px; background-color: #e0e0e0; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーフコートで、3分間ずつ交代で攻める。 ・点が入ったら、またセンターサークルから攻め始める。 ・最初は攻撃側が得点しやすいように、3対2で行うのもよい。 </div> <div style="margin-top: 20px; background-color: #e0e0e0; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・近くにいるフリーの味方にパスを出す ・相手にとられない位置でドリブルする ・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュート </div>

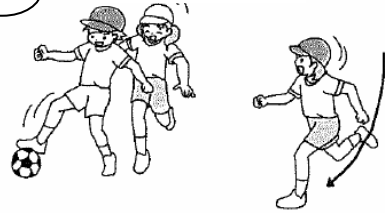
サッカー

○キックの練習



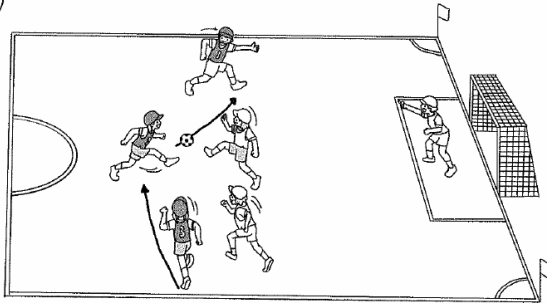
インサイドキックは蹴りたい方向に足をまっすぐ振ろう。

○ボールキープの練習



インステップキックは足の甲で蹴ろう。

○ハーフコートで3対3



- ・ハーフコートで、3分間ずつ交代で攻める。
- ・守りの1人はキーパー、1人はボールを持っている人をマークする。

ボールと相手との間に体を入れるとキープできるよ。

- ・守りの1人はキーパー。
- ・キーパー以外は、半円の中に入ってはいけない。
- ・攻めは、素早くパスを回して、ノーマークの人は積極的にシュートをする。

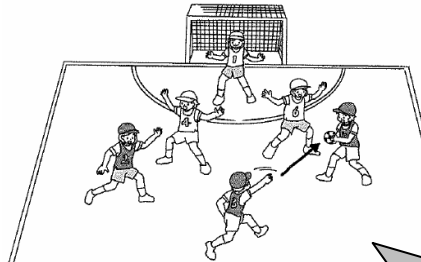
ハンドボール(★)

○ハーフコートで3対3

○ジャンプシュート

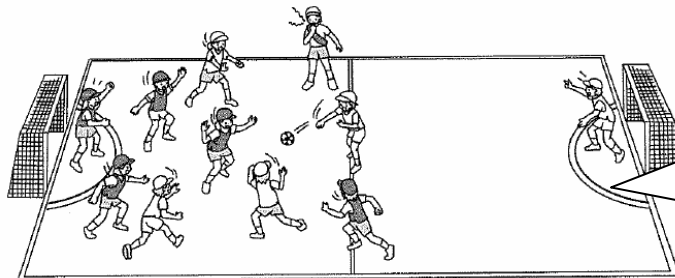


投げる手の反対の足で踏み切って、肩を大きく回してシュートしよう。



- ・守りは、ボールを保持する人とゴールの間に体を入れて相手の得点を防ぐ。

○ オールコートで5対5

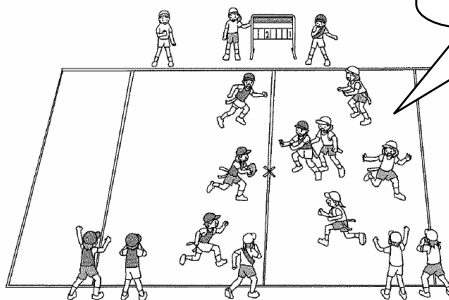


審判、時計係、得点係など、分担された役割を果たして、自分たちでゲームを進めてみよう。

タグラグビー

○ 簡単なルールでのゲーム

- ・人数は、3対3、4対4くらい。
- ・ゴールゾーンの地面にボールを付けたら得点。
- ・自分より後ろか、真横までパスをすることができる。
- ・タグをとられたら攻撃はストップ。その場所から再開。
- ・タグを5回とられたら攻守交代。



両手でボールを持ち、味方をよく見て下からパスしよう。

- ・ボールを前に投げるかわりに、空いているところに走り込んで得点をねらう。

中1・中2 「ゴール型」

ねらい	<p>○ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開する運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。</p> <p>○ゴール型の球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>○ゴール型の球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p>
技能	<p>○攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにすること。</p> <p>(ボール操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。 ・マークされていない味方にパスを出すこと。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすること。 <p>(空間に走り込むなどの動き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つこと。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと。 ・ボールを持っている相手をマークすること。
身に付けさせたい内容	<p>・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにすることに積極的に取り組めるようにすること。</p> <p>・球技は、チームや個人で勝敗を競う特徴があるので、規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり、相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイに取り組もうとすること。</p> <p>・練習やゲームの際に、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすること。</p> <p>・チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする。</p> <p>・練習の際に、球出しなどの補助をしたり、チームの作戦や戦術などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりすること。</p> <p>・体調の変化などに気を配ること、ボールやラケット、バットなどの用具の扱い方やゴールやネットの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技の難易度や自己の技能・体力の程度にあった運動をすることが大切であること。</p>
知識、思考・判断	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で得失点をめぐる攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること、ゲームの行い方の特徴から、ゴール型、ネット型及びベースボール型などに大別できること。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦の名称やその具体的な行い方や活用方法。 ・球技は、それぞれの型や運動種目で主として高まる体力要素が異なること。例えば、球技を継続することで、ゴール型では、主として巧緻性、敏捷性、スピード、全身持久力などが、型に求められる動きに関連して高められること。 ・簡易な試合におけるルール、審判や運営の仕方などの試合の行い方。 <p>○思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けること。 ・自己やチームの課題を見付けること。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめること。

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
評価規準の設定例	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを守ろうとしている。 分担した役割を果たそうとしている。 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 自己やチームの課題を見付けている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴール型では、ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と空間に走り込むなどの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※上記の「評価規準の設定例」を参考に、各学校で「学習活動に即した評価規準」を作成します。

(単元計画例)								
単元名	中学校第1学年 「 バスケットボール 」							
時間	1	2	3	4	5	6	7	8
0	<オリエンテーション> コート準備, 健康観察, 準備運動, 本時の学習内容の確認 等							
15	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しを立てる。 用具, ルールの確認 学習カード等の説明 安全指導 	☆個人・チームでの基本技術の練習等 ドリブル, パス, ドリブルシュート, ジャンプシュート, ボールキープなどを中心に			★チーム対抗戦 特別ルールを付加してもよい ・全員がシュートを打ったらボーナス点 ・ゴール下へ走り込み, ドリブルなしのシュートなら3点など			
30		★簡易化したゲームを楽しむ ・ハーフコートでの2対1, 2分交代2セット ・ドリブルなし, 守る時は2人の3対2	★守る時は一人抜けて3対2になる攻撃側有利のゲーム ・3対3, 5対5でのゲーム(空いているスペースに走り込みながらボールをもらう動き)					
45								単元のまとめ(単元を振り返って)
50	整理運動, 片付け, 本時の学習の振り返り・次時への課題作り							

【単元を通じての目標・合い言葉】

➡ 『ゴールに向かって走り込むときにパスをもらってシュートしよう!』

・第1・2学年では、攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにすることを旨とする。

【生徒に意識させたいこと、声掛けの例】

《 攻撃 》

- 常にシュートを狙うことを優先して考えよう。…(1にシュート, 2にパス, 3にドリブル)
- 自分の前に守りがいなかったらシュートを打とう。
- ノーマークの人は、声を出してボールを持っている人を呼ぼう。
- ボールを持っていない人は、攻撃しているゴールの方向へカットする動きを心掛けよう。
- どのスペースが空いているのか、広い視野を持って常に確認する癖を付けよう。

《 守備 》

- ゴールを背にしながら、ボールの位置とマークする相手の位置が見えるような位置取りをして守ろう。
- 相手の横の動きにも付いて行けるように、腰を低く構えて守ろう。

中3 「 ゴール型 」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開する運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 ○球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。 ○技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだしたりして攻防を展開できるようにすること。 (安定したボール操作) <ul style="list-style-type: none"> ・守備者が守りにくいタイミングでシュートを打つこと。 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。 ・味方が操作しやすいパスを送ること。 ・守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。 (空間を作りだすなどの動き) <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール前に広い空間を作りだすために、守備者を引き付けてゴールから離れること。 ・パスを出した後次のパスを受ける動きをすること。 ・ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れること。 ・ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。 ・ゴール前の空いている場所をカバーすること。
身に付けさせたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームが展開できるようにすることに自主的に取り組めるようにすること。 ・決められたルールやマナーを単に守るだけではなく、練習やゲームで求められるフェアな行動を通して、相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする事。 ・練習や試合の進行などで、記録や審判、キャプテンなどの仲間と互いに合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとすること。 ・チームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、チームの話し合いに責任をもってかかわろうとすること。 ・練習の際、互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして取り組み、互いに助け合い教え合おうとすること。 ・仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること、ゴール、ネット、ボールなどの用具を目的に応じて使用すること、練習場所の安全を確認しながら練習やゲームを行うこと、気温の変化に応じて準備運動などを十分行うこと、自己の体調や技能・体力の程度に応じて練習することなどを通して、健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすること。
知識、思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ○知識 <ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦の名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること、技術はボール操作とボールを持たないときの動きに大別できること。 ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ、繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること。 ・ゲームの課題に応じて、練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があること。 ・ゲームのルール、審判や運営の仕方などの試合の行い方。 ○思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかかわり方を見付けること。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。 ・球技を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付けること。

評価規準の設定例	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを大切にしようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 互いに助け合い教え合おうとしている。 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けている。 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 球技を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴール型では、ゴール前への侵入などから攻防を展開するため安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※上記の「評価規準の設定例」を参考に、各学校で「学習活動に即した評価規準」を作成します。

学習活動例	(単元計画例)											
	単元名	中学校第3学年 「バスケットボール」										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
0	健康観察、準備運動、本時の学習内容の確認											
15	オリエンテーション (単元のねらい・学習の進め方・安全指導・チーム分けなど) チームごとの練習	☆基本技術の練習 (個人、チームで) ・各自がシュートを打つ ・いい位置でボールをもらうための動き					★リーグ戦をしよう ・審判、計時係等自分たちで運営 ・5対5の公式ルールが基本 ・連携したプレーでの得点を賞揚する。					単元のまとめ (単元全体を振り返って)
30		★いろいろなチームとゲーム ・空間を作りだしての攻撃を意識した4対4や5対5のゲーム ・中を広げるために、ゴールから遠ざかる動きも意図的に入れる。					・ゲーム形式の中での行動観察で、技能評価も行っていく。					
45		整理運動、片付け、本時の学習の振り返り・次時への課題作り										
50	整理運動、片付け、本時の学習の振り返り・次時への課題作り											
	【単元を通じての目標・合い言葉】											
	『ボールを持っていないときの有効な動きによって、得点チャンスを作り空間を作りだす!』 ・第3学年では、仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、作りだしたりすることを目指す。 スクリーン、ポストプレー、・・・											
	【チャレンジしていきたい動き】											
	<ul style="list-style-type: none"> フェイクなどを用いて、守備者が守りにくいタイミングでのシュート 動きのスピードの変化を付けたスペースへの走り込み 一端ゴールから遠ざかる動きでボールを受けた後、素早く反転してシュートすること 											
	【単元の振り返り等で「思考・判断」を評価する際の声掛け例】											
	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して、チームで目指していたこと、そのために工夫したことや努力したことの具体例を挙げなさい。 学習したことの中から、自分が技術的に進歩したと思われることを、ボール操作の面とボール操作以外の面で見付けて学習カードに書きなさい。 バスケットボールの学習を通して、あなたが感じた「攻撃で大事だと思われること」、「守備で大事だと思われること」をそれぞれ簡潔に書きなさい。 											

ボール運動系「ボールゲーム」「鬼遊び」「ネット型ゲーム」「ネット型」

1 「発達の段階のまとめ」と「領域及び内容の系統」

発達の段階	各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期
学年	小1・小2	小3・小4	小5・小6
領域	ゲーム	ゲーム	ボール運動
内容	ボールゲーム 鬼遊び	ネット型ゲーム	ネット型
例示	ボール遊び ボール投げゲーム ボール蹴りゲーム	ラリーを続ける 易しいゲーム	簡易化された ゲーム
	一人鬼・二人鬼 宝取り鬼・ボール運び鬼	ネット型ゲーム ソフトバレーボール プレルボール	ソフトバレーボール プレルボール

2 ネット型の特性(魅力)

ボールゲーム 鬼遊び (小1・小2)	勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することを楽しさを味わうことができる。
ネット型ゲーム (小3・小4)	集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を立てたりすることを重視しながら、簡単な動きを身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことができる運動である。
ネット型 (小5・小6)	ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことが楽しい運動である。

3 指導上の配慮事項

【小学校】

- [小1～小6] ○互いに協力し、役割を分担して練習を行い、型に応じた技能を身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心になる。(小解説P18)
- 公正に行動する態度、特に勝敗の結果をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。(小解説P17)
- [小1・小2] ○いろいろなボールを投げたり、ついたり、捕ったりしながら行う的当て遊びやキャッチボールを取り入れて指導する。また一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則の鬼遊びを取り入れて指導する。(小解説P33・34)
- [小3・小4] ○ごく軽量のボールを片手や両手ではじいて自陣の味方にパスをしたり相手コートに戻したりして、ラリーの続くゲームをする。また、弾むボールを床や地面に打ちつけて相手コートに戻し、ラリーの続くゲームをする。
- [小5・小6] ○軽くてやわらかいボールを片手や両手で操作したり、チームの連携プレーによる攻撃が成り立つように素早く場所を移動したりして、ネットをはさんだゲームができるようにする。

【安全面】

- ・ボールやラケットなどの用具の扱い方やネットの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意する。
- ・技の難度や自己の技能・体力の程度に合った運動をすることが大切である。
- ・仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること、ネット、ボールなどの用具を目的に応じて使用すること。
- ・準備運動、柔軟運動、整理運動等が適切に行われていること。

多くの領域の学習を経験する時期	卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期	
中1・中2	中3	高校入学年次
球技	球技	球技
ネット型	ネット型	
ラリーを続ける ボールや用具の操作 空いた場所をめぐる攻防	作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームを展開する 勝敗を競う楽しさや喜びを味わう	
バレーボール 卓球 テニス バドミントン	バレーボール 卓球 テニス バドミントン	

2 ネット型の特性(魅力)

ネット型 (中1・中2)	基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。 コート上でネットをはさんで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。
ネット型 (中3)	作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームを楽しむことができる。また、対戦相手を踏まえて、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。

3 指導上の配慮事項

【中学校】

○「ネット型」については、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から運動種目を取り扱う。(中解説 P98)

【中1・中2】

○ラリーを続けることを重視して、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きなどによる空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。(中解説 84)

【中3】

○ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立て、相手側のコートの中をめぐり攻防を展開できるようにする。(中解説 P91)

【安全面】

- ・ボールやラケットなどの用具の扱い方やネットの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること。
- ・技の難度や自己の技能・体力の程度にあった運動をすることが大切である。
- ・仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること、ネット、ボールなどの用具を目的に応じて使用すること。
- ・準備運動、柔軟運動、整理運動、補強運動等が適切に行われていること。

小1・小2 「ボールゲーム」「鬼遊び」


ねらい	<p>○簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるボールゲーム、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの鬼遊びを楽しく行い、その動きができるようにする。</p> <p>○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p> <p>○簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。</p>
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物やマークなどの的に向かってボールを投げたり蹴ったりすること。 ・攻めと守りを交代しながらボールを投げたり蹴ったりすること。 ・一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則の鬼遊びをすること。 ・工夫した区域や用具で楽しく鬼遊びをすること。
	<p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組むこと。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よくゲームをすること。 ・用具の準備や片付けを、友達と一緒にすること。 ・危険物が無いか、ゲームをする場が十分あるかなどの場の安全に気を付けること。
	<p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びの行い方を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選ぶこと。 ・ボールゲームや鬼遊びの動き方を知り、攻め方を身付けること。

ボール遊び(★)

手をたたいて捕ったり、くるっと回って捕ったりしてみよう。


○ボールを投げたり当てたりして遊ぼう

下のダンボールをねらって 2つ落とそう。





- ・簡単なボール操作を行う。
つく、転がす、投げる、当てる、捕る、蹴る、止めるなど
- ・ルールやゲームの内容を工夫して、楽しくボールゲームを行う。

片手や両手で投げたりキャッチしたりしてみよう。



いろいろ ねらって当ててみよう。二人で競争してみよう。





自分で上の方に投げてください。
ボールから目を離さないようにしてください。

【子どもへの支援】

☆的に当てられない子

- ・前に出す足が的に向いているか。
- ・的との距離が自分に合っているか。

☆遊びが広がらない子

- ・的との距離を遠くしたり、友達と競争したりする。
- ・ボールの重さや大きさなどの種類を変えることを助言する。

○ペアで紙風船

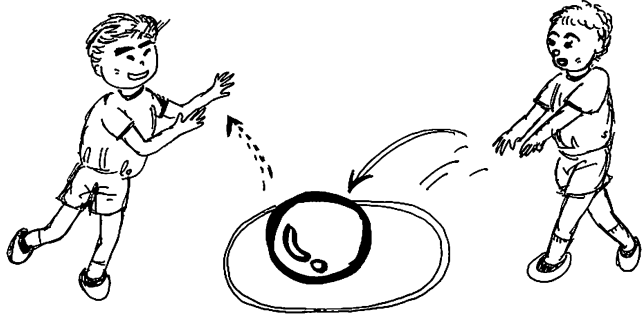


紙風船をまっすぐ飛ばすのは難しいな。

紙風船を床に落とさないように友達に向かって下から投げてごらん。

2人組,あるいは3人組をつくり,紙風船を投げて遊ぶ。
紙素材のカラフルな紙風船であれば,遊び感覚で楽しむことができ,休み時間や昼休み等の遊びにつながりやすい。

○キャンディーボールでパスゲーム



・よく跳ねるキャンディーボールやゴムボールを使用し,フラフープの円にワンバウンドさせてから友達にパスをするゲーム。
・慣れてきたら,子どもとフラフープとの間の距離を長くしたり,片手(パー,グー)で行ってみるのもよい。



フープをねらってボールを強く打ち付けてみよう。

○風船バレー



風船なら,わたしでも打てるかな。わたしにも風船回してほしいな。

・ゴム風船は,落ちる速さがゆっくりで,意外な方向に移動するので,おもしろい。
・5~6人程度のグループで行うと,互いに声を掛け合い,できるだけ長くつなごうとする姿も期待できる。
・チームごとに回数を競わせるのもよいし,簡易ネットを張り,ネット型ゲームに近付けるような工夫もできる。

小3・小4「ネット型ゲーム」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームを楽しく行い、その動きができるようになる。 ○運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 ○規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下地点やボールを操作しやすい位置に体を移動したりすることができる。 ・いろいろな高さのボールを片手又は両手ではじく、打ちつけるなどして、相手コートに返球することができる。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型ゲームに進んで取り組むこと。 ・規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりすること。 ・用具の準備や片付けを友達と一緒にすること。 ・場の危険物を取り除いたり、用具の安全を確かめたりすること。 <p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型ゲームの行い方を知り、楽しくゲームを行うことができるプレーヤーの数やコートのつくり、プレー上の制限、得点の仕方、ゲームや練習をするときの規則などを選ぶこと。 ・ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てること。

学
習
活
動
例

ネット型ゲーム

- ・プレルボールの要素を含んだ体ほぐしの運動を取り入れる。
- ・簡単なボール操作で、ボールをコントロールする力を身に付ける。

ラリーを続けよう。

3人組でラリーを続けよう。

コートを決めてやってみよう。

コートから出ないように続けてみよう。

ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動すること。

相手が受けやすいようにボールをつなぐこと。

○ ネットを使っでのラリーゲーム

サーブも練習してみよう。

味方へのパスをしてみよう。

軽くて柔らかいボールを片手や両手で操作したりチームの連携プレーによる攻撃が成り立つように素早く移動したりしてゲームを楽しむ。

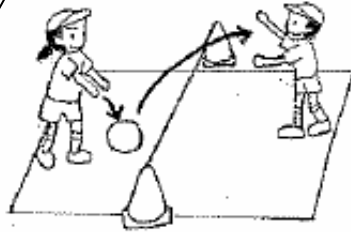
○ バウンドボール

○ プレールボール

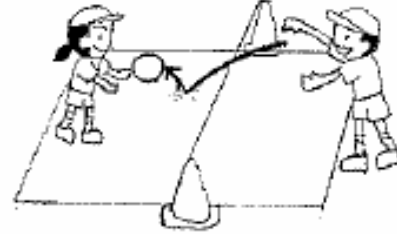
【学習のねらい】

○1対1～3対3でネットをはさみ、手を使った簡単なボール操作で相手とラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームをする。

両手を使って、ボールをワンバウンドさせて相手コートへ入れてみよう。

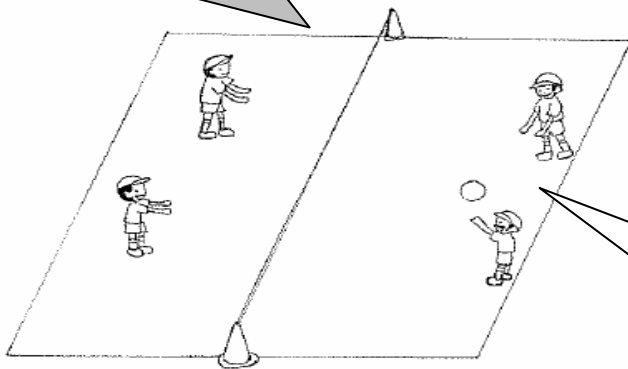


ボールを押し出すような感じで、返球してみよう。



○ 2対2でボールをつなぐゲーム

- ・自陣の味方にパスをしたり相手コートに返したりして、ラリーの続くゲームをする。
- ・自陣から相手コートに向かって、相手を取りにくいようなボールを返すゲームをする。



どこにどんなボールを返したら得点しやすいだろう？

- ・サーブは、自分のコートにバウンドさせてから相手コートに入れる。
- ・ボールをはじいて、相手コートにバウンドさせる。
- ※ノーバウンドかワンバウンドで味方にパスする。一人が続けてはじいてはいけない。
- ※相手コートにボールが返せなかったら、相手の得点。
- ※サーブは交代で行う。5分間で得点の多いチームの勝ち。

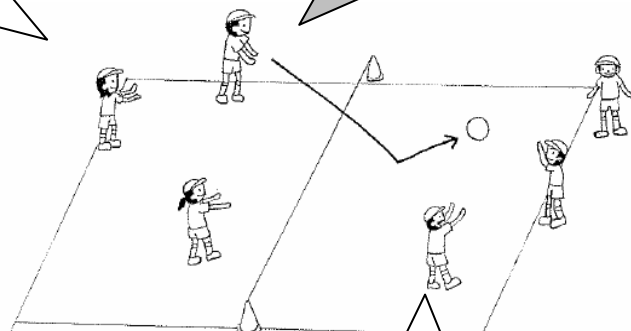
○ 3対3でボールをつなぐゲーム

1回で返すのではなく、味方につないでから返すと強い球が打てるよ。

《 作戦の例 》

- ・足もとをねらう作戦
- ・相手のコート深くに返す作戦
- ・相手のすき間に打つ作戦
- ・2回目は高く打つ作戦
(3回目を味方が強く打てる)

ボールの方向に体を向けて、いつでもボールに対応できる準備をしておくことが大事。



味方同士で声を出し合うことが大事だよ。

※ゲームを始める前や、終わった後にチームで話し合う時間を取ること。

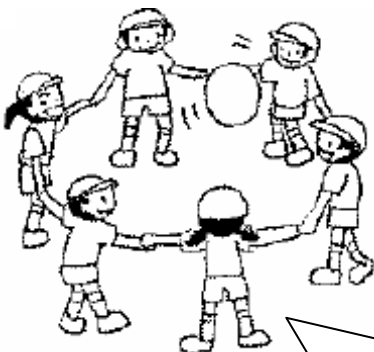
※体育カードで、学習のつながりを確かめながら単元を展開していく。

小5・小6「ネット型」

ねらい	<p>○簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備によって攻防をする楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>○運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。</p> <p>○ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。</p>
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽くてやわらかいボールを片手や両手で操作したり、チームの連係プレーによる攻撃が成り立つように素早く場所を移動したりして、ネットをはさんだゲームができる。 ・ボール操作についての制限を緩和したボールがつながりやすい状況の中で、相手が捕りにくいようなボールを打ち返すことができる。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型ゲームに進んで取り組むこと。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをすること。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たすこと。 ・場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ること。 <p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型の楽しいゲームの行い方を知り、プレーヤーの数、コートの広さ、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選ぶこと。 ・チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てること。

操作しやすいボールを使用して、誰もが楽しめるようにルールを工夫したゲーム

○風船手つなぎ円形パス



- ラリーが続く楽しさを味わう。
- ボールの落下地点に移動する動きを身に付ける。

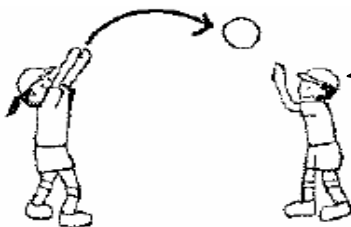
みんなで協力しながら移動して、風船をみんなの輪の外に出さないようにしましょう。

○ワンバウンドパスラリー

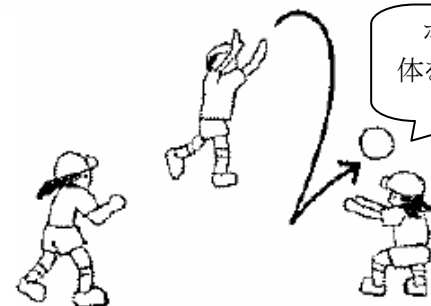


ボールが落ちてくる場所に、早めに動いてレシーブの準備をしておこう。

○パス練習



最後までボールをよく見ることが大事だよ。



ボールの正面に体を動かそう。

- ボールの方向に体（おへそ）を向ける。
- オーバーハンドパスでは、ボールの落下地点に移動して額の上でパスを出す。
- アンダーハンドパスは、ワンバウンドのボールを返すことから始めてもよい。

○ ネットをはさんだゲーム

ネットをはさんでゲームをしよう。
ルールや作戦を工夫しよう。



ボールに触れそうな人が声を出して、味方同士でぶつからないように気を付けよう。

【子どもへの支援】

☆仲良く遊べない子

- ・みんなで楽しく遊ぶためには、勝ち負けにこだわりすぎないように助言する。

☆ボール運動が苦手な子

- ・個々の力に応じた作戦や練習を工夫する。
- ・カバーの意識を高め、励まし合い向上する。

味方が取りやすいように、ボールは上に上げることを目指そう。



サーブは後ろの方をねらうようにしましょう。

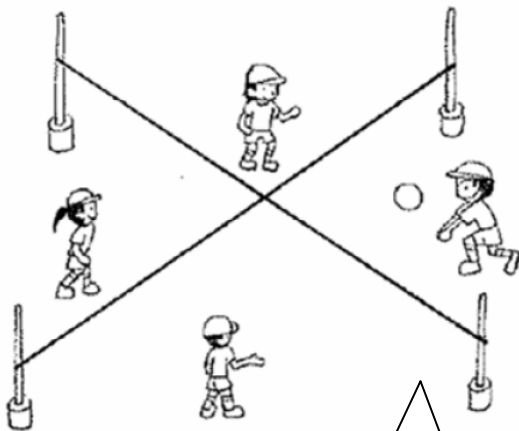
<ルールの例>

- ・1チーム4人
- ・サーブ2回、ワンバウンドOK
- ・3回～5回くらいで返すことを目指す。
- ・1人が連続2回さわってもよい。など、ゲームがつながるようなルールからスタートする。

- ・3人でレシーブ→パス→返球ができれば1点とする。
- ・レシーブは、最初はワンバウンドでもよしとする。上手になってきたらノーバウンドを目指す。

○ 王様ゲーム

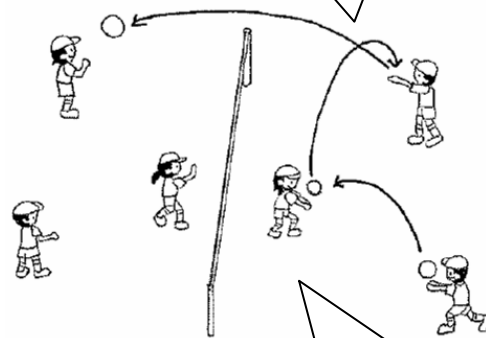
スペースに1人ずつ入り、4人でゲームする。ネットプレーに慣れる。



体の向きは、返球したい方向に持っていき、とうまういくよ。

○ パスゲーム3対3

3回目で確実に相手コートに返球することをめざそう。



味方がとりやすい位置、取りやすい高さのボールを返せるようになろう。

中1・中2 「 ネット型 」

ねらい	<p>○ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。</p> <p>○ネット型の球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p> <p>○ネット型の球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。</p>
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <p>○ラリーを続けることを重視して、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きなどによる空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにすること。</p> <p>(ボールや用具の操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーブでは、ボールやラケットの中心付近でとらえること。 ・ボールを返す方向にラケット面を向けて打つこと。 ・相手側のコートの中空いた場所にボールを返すこと。 ・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと。 ・テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むこと。 <p>(定位置に戻るなどの動き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の打球に備えた準備姿勢をとること。 ・プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻ることにすること。 ・ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対すること。
	<p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにすることに積極的に取り組めるようにすること。 ・球技は、チームや個人で勝敗を競う特徴があるので、規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり、相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイに取り組もうとすること。 ・練習やゲームの際に、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすること。 ・チームなどの課題の解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする。 ・練習の際に、球出しなどの補助をしたり、チームの作戦や戦術などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりすること。 ・体調の変化などに気を配ること、ボールやラケット、バットなどの用具の扱い方やゴールやネットの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技の難易度や自己の技能・体力の程度にあった運動をすることが大切であること。
	<p>知識、思考・判断</p> <p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で得失点をめぐる攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること、ゲームの行い方の特徴から、ゴール型、ネット型及びベースボール型などに大別できること。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦の名称やその具体的な行い方や活用方法。 ・球技は、それぞれの型や運動種目で主として高まる体力要素が異なること。例えば、球技を継続することで、ネット型では、主として巧緻性、敏捷性、スピード、筋持久力などが、型に求められる動きに関連して高められることを理解できるようにする。 ・簡易な試合におけるルール、審判や運営の仕方などの試合の行い方。 <p>○思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けること。 ・自己やチームの課題を見付けること。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめること。

評価規準の設定例	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを守ろうとしている。 分担した役割を果たそうとしている。 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 自己やチームの課題を見付けている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するためのボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※上記の「評価規準の設定例」を参考に、各学校で「学習活動に即した評価規準」を作成します。

学習活動例	(単元計画例)								
	単元名	中学校第1学年 「 バレーボール 」							
	時間	1	2	3	4	5	6	7	8
	0	<オリエンテーション>	コート準備, 健康観察, 準備運動, 本時の学習内容の確認等						
	15	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しを立てる。 用具, ルールの確認 学習カード等の説明 安全指導 	☆～バレーボールでの素早い動きに慣れる～ 『小学校ソフトバレーボールからバレーボールへ!』 ☆2・3・4人組での基本技術の練習等 アンダーハンドパス オーバーハンドパスを中心に		★チーム対抗戦 ・サーブは2回まで。届かない生徒は、ネットの近くからでもよい。 ・ラリーポイント 15点先取 ・2セット早く取ったチームの勝ち ・3回で返す間、ラリーを続ける、を意識させる。			単元のまとめ (単元を振り返って)	
	30		★簡易化したゲーム ・転がしバレーボール ・1回はキャッチしてよいゲームなど	★4対4でのゲーム ・ボールの正面に速く動いてレシーブやトス ・素早く定位置に戻る。 ・自陣で「つないで返す」を目指す。					
	45								
	50	整理運動, 片付け, 本時の学習の振り返り・次時への課題作り							
	【単元を通じての目標・合い言葉】 ➡ 『ボールの正面に入って ボールを上上げる!』								
	・第1・2学年では、 「ラリーを続けることを重視」 まずは、つながりやすいようにボールを上上げることを目指す。								
【コート, 人数】 小さめにコートを区切り, 主に4対4程度を中心に 【苦手な生徒, うまくいかない生徒への支援・声掛け】									
<ul style="list-style-type: none"> ●うまくパスをつなげるには →ボールが落ちてくる真下に入ってみよう。 ボールを待つときは、膝を曲げて低く構えよう。 常にボールに正対して構えよう。 ●アンダーハンドパスがうまくいかない生徒には、 →いすに座った姿勢から立ち上がりながら、少し手前にトスしてもらったボールを受けてみよう。 しゃがんだ姿勢から立ちながらボールを受けてみよう。 ●サーブを打つときには →ボールの中心を押し出すようなイメージで、強くボールをたたいてみよう。 ボールをよく見て打とう。 									

中3 「 ネット型 」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 ○ネット型の球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。 ○技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにすること。 (役割に応じたボール操作や安定した用具の操作) ・サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。 ・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。 ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。 ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。 ・連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。
身に付けさせたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームが展開できるようにすることに自主的に取り組めるようにすること。 ・決められたルールやマナーを単に守るだけではなく、練習やゲームで求められるフェアな行動を通して、相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする事。 ・練習や試合の進行などで、記録や審判、キャプテンなどの仲間と互いに合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとすること。 ・チームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、チームの話し合いに責任をもってかかわろうとすること。 ・練習の際、互いに練習相手になったり、仲間に助言したりして取り組み、互いに助け合い教え合おうとすること。 ・仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること、ゴール、ネット、ボールなどの用具を目的に応じて使用すること、練習場所の安全を確認しながら練習やゲームを行うこと、気温の変化に応じて準備運動などを十分行うこと、自己の体調や技能・体力の程度に応じて練習することなどを通して、健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすること
知識、思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ○知識 <ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦の名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること、技術はボール操作とボールを持たないときの動きに大別できること。 ・球技のパフォーマンスは、型や運動種目によって、様々な体力要素に強く影響される。そのため、ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ、繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること。 ・ゲームの課題に応じて、練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があること。 ・ゲームのルール、審判や運営の仕方などの試合の行い方。 ○思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けること。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。 ・球技を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けること。

評価規準の設定例	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを大切にしようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 作戦などについて話し合いに貢献しようとしている。 互いに助け合い教え合おうとしている。 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けている。 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 球技を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット型では、空いた場所をめぐる攻防を展開するための役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※上記の「評価規準の設定例」を参考に、各学校で「学習活動に即した評価規準」を作成します。

学習活動例	(単元計画例)											
	単元名	中学校第3学年 「バレーボール」										
	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	0	オリエンテーション (単元のねらい・学習の進め方・安全指導・名称や行い方・チーム分けなど) チームごとの練習	健康観察、準備運動、本時の学習内容の確認									
	15		☆基本技術の練習 (2人組、チームで) ・チーム内で「つなぐ！」 ・3段攻撃をめざして					★リーグ戦をしよう ・審判、得点係等自分たちで運営 ・6人制バレーボールのオフィシャルルールで行う。 ・ゲーム形式の中での行動観察で、技能評価も行っていく。				
	30		★いろいろなチームとゲーム ・ポジションの役割に応じたボール操作や、連携した動きを意識して					単元のまとめ (単元全体を振り返って)				
	45		整理運動、片付け、本時の学習の振り返り・次時への課題作り									
	50											
		【単元を通じての目標・合い言葉】 → 『拾って、つないで、3段攻撃！』										
		【ルールの工夫】 <ul style="list-style-type: none"> 3段攻撃が組み立てやすいように、サーブはせずに、レシーバーのところに取りやすいボールを投げ入れて始める。(上手になってきたらサーブから) 3段攻撃での得点は2点とする。 状況に応じてボールキャッチ有りの「セットバレーボール」 										
	【用具の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> 手が痛くない柔らかなボールを使用した「ローインパクトバレーボール」(ボールの動きはバレーボールと変わらない) 											
	【単元の振り返り等で「思考・判断」を評価する際の声掛け例】 <ul style="list-style-type: none"> 学習したことの中から、自分の技術的課題を、ボール操作の面とボール操作以外の面で見付けてみよう。 単元を通して、チームの役割分担にどのように貢献できたか具体例を挙げてみよう。 学習した安全の留意事項などの中から、実際の授業の場面で危険だと感じたことはありましたか。その際、どのような対応を考えたり実践したりしましたか。 											
	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、自陣にて「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てることを目指す。 											

1 「発達の段階のまとめ」と「領域及び内容の系統」

発達の段階	各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期
学年	小1・小2	小3・小4	小5・小6
領域	ゲーム	ゲーム	ボール運動
内容	ボールゲーム 鬼遊び	ベースボール型 ゲーム	ベースボール型
例示	簡単なボール操作 ボールを持たないときの動き 逃げる・追いかける	攻守を交換するゲーム	簡易化されたゲーム
	ボール遊び ボール投げゲーム ボール蹴りゲーム 鬼遊び	ベースボール型ゲーム	ソフトボール ティーボール

2 ベースボール型の特性(魅力)

ボールゲーム 鬼遊び (小1・小2)	勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することに楽しさを味わうことができる。
ベースボール型 ゲーム(小3・小4)	簡易化させたベースボール型ゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できる。
ベースボール型 (小5・小6)	攻守を規則的に交代し合い、一定の回数内で得点を競い合うことを課題としたゲームである。

3 指導上の配慮事項

【小学校】

- 互いに協力し、役割を分担して練習を行い、型に応じた技能を身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心になる。(小解説 P18)
- 公正に行動する態度、特に勝敗の結果をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。(小解説 P17)

【小1・小2】

- いろいろなボールを投げたり、ついたり、捕ったりしながら行う的当て遊びやキャッチボールを取り入れて指導する。また一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則の鬼遊びを取り入れて指導する。(小解説 P33・34)

【小3・小4】

- ボールを蹴る、打つなどにより攻撃したり、捕る、投げるなどにより守備をしたりして、攻守を交換するゲームを行う。(小解説 P52)

【小5・小6】

- 止まったボールや易しく投げられたボールを打ったり、インニング終了の仕方を工夫したりして攻守交代が繰り返し行えるように簡易化ゲームを取り入れて指導する。(小解説 P74)

【安全面】

- ・場の危険物を取り除いたり、用具・設備の安全を確かめたりする。
- ・投げる・蹴る・捕球するなどのボールコントロールの能力差が大きなチーム同士の対戦において、スピードの速いボールに対する対処について配慮するようにさせる。
- ・仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること、バット、ボールなどの用具を目的に応じて使用すること。
- ・準備運動、柔軟運動、整理運動、等が適切に行われていること。

多くの領域の学習を経験する時期	卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期	
中1・中2	中3	高校入学年次
球技	球技	球技
ベースボール型	ベースボール型	
基本的な バット操作 ボール操作	易しい投球に対する打撃による攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防	
ソフトボール	ソフトボール	

2 ベースボール型の特性(魅力)

ベースボール型 (中1・中2)	基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる。身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多く得点を競い合うゲームである。
ベースボール型 (中3)	易しい投球に対する安定した打撃により出塁・進塁・得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにする。

3 指導上の配慮事項

【中学校】

- 「ベースボール型」については、ソフトボールを上げる。(中解説 P98)

【中1・中2】

- 攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにする。(中解説 P86)

【中3】

- 易しい投球に対する安定した打撃により出塁・進塁・得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにする。(中解説 P92)

【安全面】

- ・ 場の危険物を取り除いたり、用具・設備の安全を確かめたりする。
- ・ 場に適したシューズを履く、爪が伸びていないか確認するなど、服装面の点検をする。
- ・ 投げる・蹴る・捕球するなどのボールコントロールの能力差が大きなチーム同士の対戦において、スピードの速いボールに対する対処について配慮するようにさせる。
- ・ 仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること、バット、ボールなどの用具を目的に応じて使用すること。
- ・ 準備運動、柔軟運動、整理運動、補強運動等が適切に行われていること。

小1・小2 「ボールゲーム」「鬼遊び」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるボールゲーム、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの鬼遊びを楽しく行い、その動きができるようにする。 ○運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 ○簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物やマークなどの的に向かってボールを投げたり蹴ったりすること。 ・攻めと守りを交代しながらボールを投げたり蹴ったりすること。 ・一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うことなどの簡単な規則の鬼遊びをすること。 ・工夫した区域や用具で楽しく鬼遊びをすること。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組むこと。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よくゲームをすること。 ・用具の準備や片付けを、友達と一緒にすること。 ・危険物が無いか、ゲームをする場が十分あるかななどの場の安全に気をつけること。 <p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びの行い方を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選ぶこと。 ・ボールゲームや鬼遊びの動き方を知り、攻め方を身付けること。

学習活動例

ボール遊び(★)

ボールに慣れる遊びをして楽しもう。

《一人で》

- ・手をたたいてとる
- ・回転してとる
- ・ボールと一緒に弾む

何回手をたたけるかな？

どちらの方へも回転できる？

ボールの弾み方と逆でもやってみよう。

《ペアで》

- ・ワンバウンド、ノーバウンドパス

遠くまでボールをとばすことができるかな？

相手が取りやすいところへ投げよう。

《グループで》

- ・人間トンネル

トンネルに当たらずまっすぐボールが転がるかな？

的当てゲーム(★)

○ねらったところに緩やかにボールを投げたり、転がしたりすること。

○ボールを捕ること

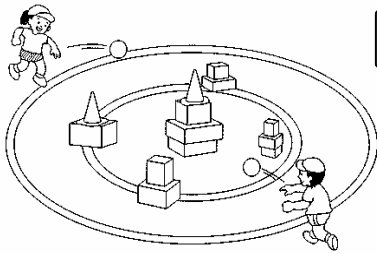
○ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ること。

○ボールを操作できる位置に動くこと。

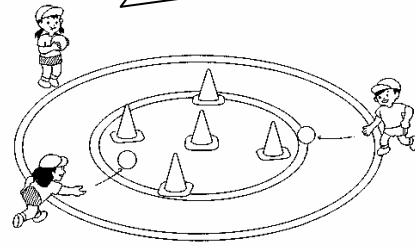
どのゲームもしっかり的にねらいを定めよ

距離を変えてもおもしろいね。

大小、弾む・弾まないなど、いろいろなボールで、つく、転がす、投げる、当てる、捕る、蹴るなどの止める簡単なボール操作を工夫して行う。



的に「点」や「当たり」を設定して、チームで対戦してみよう。時間内でどれだけ得点できるかな



ベースボール型につながるボール蹴りゲーム

攻撃側の「カラーコーンを回って帰ってくるのが早いかな」、守備側の「整列するのが早いかな」を競い合うことを楽しむゲーム。

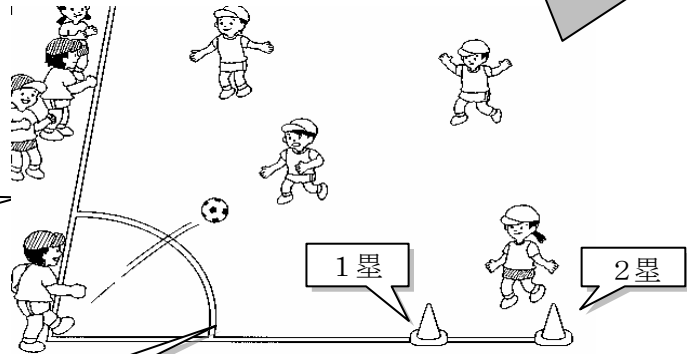
- ・1チーム4～5人。
- ・ファウルラインを越えない場合、蹴り直し。
- ・1塁をタッチで1点、2塁をタッチで2点。
- ・ホームはベースを踏む。ランナーが累に残ることはない。

攻撃側は、ボールを蹴って出塁し、カラーコーンを回ってホームに戻る。発展ルールとして2塁を設定する。自分の蹴球のコースや守備側のプレイ状況をもとに、攻撃時にも状況判断の機会を保障できる。

学習活動例

攻撃側の視点

どの方向に蹴ったら点を取りやすいかな？



ファウルライン

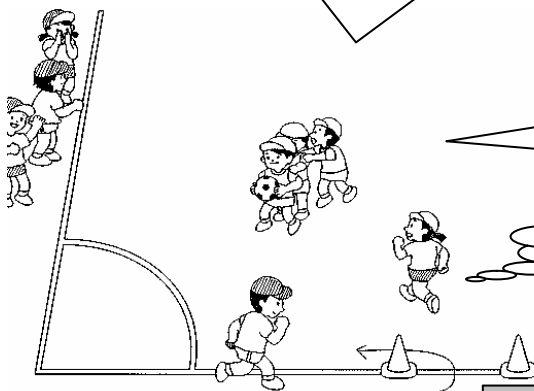
1塁か2塁のどちらがいいか選択しよう。

守備側の視点

取ったらみんな早く並ぼう。みんなつながったら座るんだよ。

誰がどこで守ったらアウトにしやすいか、守る位置について相談してみよう。

早く並ばないと。



守備側は、捕球点を基点として捕球者を先頭に、守備側全員が一列に整列してアウトにする。蹴ったボールコースを先取りして移動しなければならない、ボールコースに移動する能力・判断を高める。

小3・小4 「ベースボール型ゲーム」

ねらい

- 蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームを楽しく行い、その動きができるようにする。
- 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。

身に付けさせたい内容

技能

- ・ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすること。
- ・投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げること。
- ・向かってくるボールの正面に移動すること。
- ・ベースに向かって走り、かけ抜けること。

態度

- ・ベースボール型ゲームに進んで取り組むこと。
- ・規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりすること。
- ・用具の準備や片付けを友達と一緒にすること。
- ・場の危険物を取り除いたり、用具の安全を確かめたりすること。

思・判

- ・ベースボール型ゲームの行い方を知り、楽しくゲームを行うことができるプレーヤーの数やコートづくり、プレイ上の制限、得点の仕方、ゲームや練習をするときの規則などを選ぶこと。
- ・ゲームの型の特徴に合わせた攻め方を知り、簡単な作戦を立てること。

ボール遊び(★)

上手に投げたり、取ったりできるかな?

○ティーボールを行うことで、バットでボールを打ち返す感覚を身につける。
○ゴールゲームや的当てゲームを通して、更に打つ楽しさを味わう。

いろいろなボール打ちゲーム

打つ感覚をつかもう。

どのラインまで飛ばせるかな?

ゴールに入ったら得点だよ。

ダーツの感覚で。

どこをねらうと箱が倒れるかな?

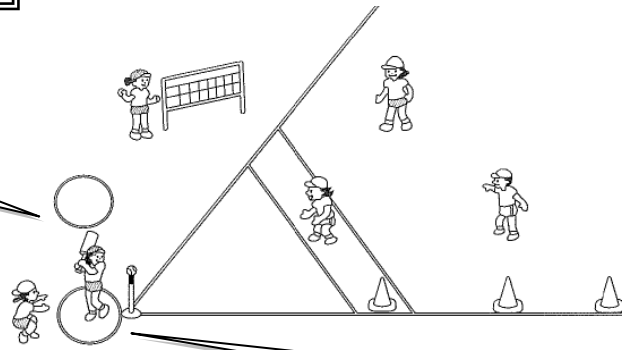
ねらった輪を射ぬけるかな?

学習活動例

バックホームベースボール

誰もが楽しめるように、ルールや用具を工夫する。

バットを置くフープ



ルールについて

ホームベースのフープ

○誰でも「分かる・できる」有効なルール

- ・3アウト交替制でなくチーム全員が1回ずつ打ったら攻守交代。
- ・三振、四球なしで、打球がコートの中に入るまで打つことができる。
- ・ボールがホームに返球されるまで、何度でもコーンを回って得点できる。
- ・フライは 第1から4時・・・捕られてもアウトにならず、打者は得点可能。

第5時以降・・・捕ると守備側が3点、手に当たっても1点獲得。

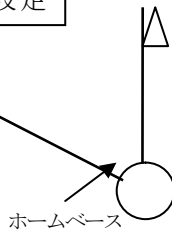
○安全で扱いやすい用具の選択

- ・ウレタンを巻いたプラスチックバット（軽い、安全、よく当たる）
- ・ノーパンクボール（捕りやすい）
- ・バッティングティー（初めての児童もボールをミートしやすい）

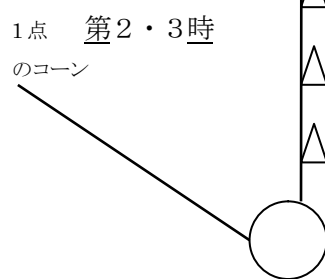
学習活動例

場の設定

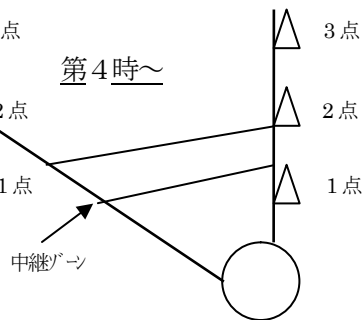
第1時



第2・3時のコーン



第4時～



- ・1点のコーンは、打ったり走ったりするのが不得手な児童も1日1回は得点できる近距離に置く。（1点目は5mから8m程度が目安。2、3点目はそれぞれの後方4m程度に配置するのが目安）

- ・コートは60度～90度が目安。

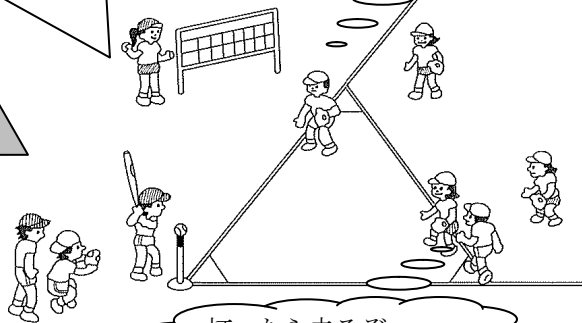
- ・守備側は、必ず中継ゾーンにいる味方にボールを中継してからホームにいる味方のキャッチャーに返球する。（一人でも多くの児童がボールに触れることができるように。）

ティーボール

審判や得点係も自分たちで役割分担できるといいね。

捕って見せるぞ。

- 止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つこと。
- 打球の方向に移動し、捕球すること。
- 捕球する相手に向かって、オーバーハンドで投げること。
- 塁間の打球の状況に応じて走塁すること。



小5・小6「ベースボール型」

ねらい	<p>○簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備によって、攻防を楽しくしや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>○運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。</p> <p>○ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。</p>
身に付けさせたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つこと。 ・打球方向に移動し、捕球すること。 ・捕球する相手に向かって、オーバーハンドで投げること。 ・塁間を打球の状況に応じて走塁すること。 <p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベースボール型のゲームに進んで取り組むこと。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをすること。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たすこと。 ・場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ること。 <p>思・判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベースボール型の楽しいゲームの行い方を知り、プレーヤーの数、コートの広さ、プレイ上の制限、得点の仕方などのルールを選ぶこと。 ・チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てること。
学習活動例	<p>スローピッチングソフトボール</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム5～6人のチーム編成をし、三角ベースの場を3～4コートつくる。 ・慣れてきた段階でチームの人数も増やし、場づくりも工夫する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ルールの工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工夫したゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ティソフトボール ・トスソフトボール ・スローピッチングソフトボール ○小コート小人数の原則 <ul style="list-style-type: none"> ・三角ベースの工夫 ○ボールの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・やわらかいボールの工夫 ○味方がピッチャーをする <ul style="list-style-type: none"> ・トスソフトボール ・スローピッチングソフトボール ○ホームランゾーンの設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ワンエラーのホームランを防ぐ工夫 ○男女差を克服するための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・一塁ベースの距離を変える </div> <div style="text-align: center;"> </div>

静岡県ならではの！の取組について

文部科学省全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、静岡県の子どもたちの体力・運動能力の状況が見えてきます。（調査の対象は小学校第5学年と中学校第2学年です。）

平成20年度から平成23年度までの結果からは、小学生、中学生いずれも体力の合計点は全国平均を上回っています。しかし、「握力」「長座体前屈」「ソフトボール投げ」については、全国平均を下回るという結果になりました。特に、「ソフトボール投げ」については、昭和40年以来、全国平均を上回ったことはありません。

そこで、静岡県としては「投力」アップのための授業や取組、活動に力を入れていくことを推奨していきます！

授業では…

この、「静岡県の授業づくり指針」では、「投力」「握力」「柔軟性」を向上させる運動（向上につながる運動遊び・運動）に「★」を付けて紹介しています。

静岡県の子どもたちに「バランスのとれた体力」を育むために、ぜひ、日頃の授業で先生方の創意工夫も盛り込んで、取り組むとよいでしょう。

「体力アップコンテスト しずおか」に参加しよう！

みんなで ドッジボールラリー

3分間でボールを投げ合い、何回キャッチできたかを競います。

※詳細は「体力アップコンテスト実施要項」をご覧ください。



試してみたい運動・遊び

○紙鉄砲

紙鉄砲を頭の後ろに振り上げてから、勢いよく振り下げる動作は、ボールを投げる時の振りかぶりや肩の回し方など、共通する部分が多い。



リレーのバトンを通したロープを、地面からバックネットや校舎など、高い位置で結べる場所に付ける。バトンがロープに沿って滑らす動作（下から上）は、ボールを投げる動作やボールを離すタイミングをつかむことにつながっていく。



中1・中2 「ベースボール型」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開する運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。 ○ベースボール型の球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，分担した役割を果たそうとすること，作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。 ○ベースボール型の球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
身に付けたい内容	<p>技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ○攻撃を重視して，易しい投球を打ち返したり，定位置で守ったりする攻防を展開できるようにすること。 (基本的なバット操作) <ul style="list-style-type: none"> ・投球の方向と平行に立ち肩越しにバットを構えること。 ・地面と水平になるようにバットを振り抜くこと。 ・タイミングを合わせてボールを打ち返すこと。 (走塁) <ul style="list-style-type: none"> ・全力で走りながら，タイミングを合わせて塁を駆け抜けること。 ・減速したり反転したりして塁上に止まること。 (ボール操作) <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの正面に回り込んで，ゆるい打球を捕ること。 ・投げる腕を後方に引きながら足を踏み出して大きな動作でボールをねらった方向に投げること。 ・守備位置から塁上へ移動して，正面の送球を受けること。 (定位置での守備) <ul style="list-style-type: none"> ・捕球しやすい守備位置に繰り返し立ち準備姿勢をとること。 ・ポジションの役割に応じてベースカバーやバックアップの基本的な動きをすること。
身に付けたい内容	<p>態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにすることに積極的に取り組めるようにすること。 ・球技は，チームや個人で勝敗を競う特徴があるので，規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手を尊重するといったマナーを守ったり，相手の健闘を認めたりして，フェアなプレイに取り組もうとすること。 ・練習やゲームの際に，用具の準備や後片付け，記録や審判などの分担した役割に積極的に取り組もうとすること。 ・チームなどの課題の解決に向けて，自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとするなど。 ・練習の際に，球出しなどの補助をしたり，チームの作戦や戦術などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりすること。 ・体調の変化などに気を配ること，ボールやラケット，バットなどの用具の扱い方やゴールやネットの設置状態，練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること，技の難易度や自己の技能・体力の程度にあった運動をすることが大切であること。
知識，思考・判断	<p>知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識 <ul style="list-style-type: none"> ・球技は，個人やチームの能力に応じた作戦を立て，集団対集団，個人対個人で得失点をめぐる攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること，ゲームの行い方の特徴から，ゴール型，ネット型及びベースボール型などに大別できること。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦の名称やその具体的な行い方や活用方法。 ・球技は，それぞれの型や運動種目で主として高まる体力要素が異なること。例えば，球技を継続することで，ベースボール型では，主として巧緻性，敏捷性，瞬発力，筋力などが，型に求められる動きに関連して高められること。 ・簡易な試合におけるルール，審判や運営の仕方などの試合の行い方。 ○思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けること。 ・自己やチームの課題を見付けること。 ・提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ・仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめること。

評価規準の設定例	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを守るようとしている。 分担した役割を果たそうとしている。 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 自己やチームの課題を見付けている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型では、攻防を展開するための基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などの動きがでる。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※上記の「評価規準の設定例」を参考に、各学校で「学習活動に即した評価規準」を作成します。

(単元計画例)											
単元名	中学校第2学年 「ソフトボール」										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0	<オリエンテーション> グランド準備, 健康観察, 準備運動, 本時の学習内容の確認等										
15	単元の見通しを立てる。 用具、ルールの確認 学習カード等の説明 安全指導	☆個人での基本技能の練習 ・練習の中でも随時ルールの学習も行っていく キャッチボール, 守備練習, トスバッティング (ティーバッティング) 走塁練習				☆チームでの基本技能の練習			★チーム対抗戦を行う (リーグ戦) 生徒の実態に応じて特別ルールの採用も可 ・三振でなく五振でアウト ・5アウト交代 ・ピッチャーは攻撃側から出すなど		
30		★簡易化したゲーム (例) ・5人对5人で, 1回の攻撃で5人全員がティーに置かれたボールを打つ。進んだ塁の数が得点。5回制。		★1チーム9人のチーム同士のゲーム ・正式な守備位置について、守備の連携をゲームの中で確かめていく ・ピッチャーは、少し前からゆっくりで打ちやすいボールを投げる。							
45		★チーム対抗戦を行う (リーグ戦) 生徒の実態に応じて特別ルールの採用も可 ・三振でなく五振でアウト ・5アウト交代 ・ピッチャーは攻撃側から出すなど			単元のまとめ (単元を振り返って)						
50	整理運動, 片付け, 本時の学習の振り返り・次時への課題作り										

【単元を通じての目標・合い言葉】

『・バットを水平に振って、ボールを打ち返そう！
 ・ボールの正面に移動して捕球しよう！』

【苦手な生徒, うまくいかない生徒への支援】

●うまくキャッチ → ・ボールの正面に入っ
 するには
 ・おへそより高いか低いかで、グローブの出し方を変えてみよう。
 (高い→指先上, 低い→指先下)

●投球を打つ → ・ボールをよく見て打とう。
 ときには
 ・バットを持っている手だけで打つのではなくて、腰の回転で打とう。
 ・なかなか当たらない生徒は、最初からバットを肩に乗せるようににおいて、
 地面と水平になるようにバットを振ってみよう。

中3 「 ベースボール型 」

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作，連携した守備などによって攻防を展開する運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。 ○ベースボール型の球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとする事，自己の責任を果たそうとする事，作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや，健康・安全を確保することができるようにする。 ○技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解し，自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ○易しい投球に対する安定した打撃により出塁・進塁・得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにすること。 (安定したバット操作) ・体の軸を安定させてバットを振り抜くこと。 ・ボールの高さやコースなどにタイミングを合わせてボールをとらえること。 ・ねらった方向にボールを打ち返すこと。 (走塁) ・スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ること。 ・打球の状況に応じた塁の回り方で，塁を進んだり戻ったりすること。 (ボール操作) ・捕球場所へ最短距離で移動して，相手の打ったボールを捕ること。 ・ねらった方向へステップを踏みながら無駄のない一連の動きでボールを投げること。 ・仲間の送球に対して塁上でタイミングよくボールを受けたり，中継したりすること。 (連携した守備) ・味方からの送球を受けるために，走者の進む先の塁に動くこと。 ・打球や走者の位置に応じて，中継プレイに備える動きをすること。 ・ポジションに応じて，ダブルプレイに備える動きをすること。
身に付けさせたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームが展開できるようにすることに自主的に取り組めるようにすること。 ・決められたルールやマナーを単に守るだけではなく，練習やゲームで求められるフェアな行動を通して，相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする事。 ・練習や試合の進行などで，記録や審判，キャプテンなどの仲間と互いに合意した役割に，責任をもって自主的に取り組もうとする事。 ・チームの課題の解決に向けて，自己の考えを述べたり，相手の話を聞いたりするなど，チームの話し合いに責任をもってかかわろうとする事。 ・練習の際，互いに練習相手になったり，仲間に助言したりして取り組み，互いに助け合い教え合おうとする事。 ・仲間や相手チームの技能の程度や体力に応じて力を加減すること，ゴール，ネット，ボールなどの用具を目的に応じて使用すること，練習場所の安全を確認しながら練習やゲームを行うこと，気温の変化に応じて準備運動などを十分行うこと，自己の体調や技能・体力の程度に応じて練習することなどを通して，健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすること
知識，思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ○知識 <ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦の名称があり，それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること，技術はボール操作とボールを持たないときの動きに大別できること。 ・球技のパフォーマンスは，型や運動種目によって，様々な体力要素に強く影響される。そのため，ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ，繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができること。 ・ゲームの課題に応じて，練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには，自己観察や他者観察などの方法があること。 ・ゲームのルール，審判や運営の仕方などの試合の行い方。 ○思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ・提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。 ・仲間に対して，技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。 ・作戦などの話し合いの場面で，合意を形成するための適切なかわり方を見付けること。 ・健康や安全を確保するために，体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。

・球技を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付けること。

評価規準の設定例	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 フェアなプレイを大切にしようとしている。 自己の責任を果たそうとしている。 作戦などについて話し合いに貢献しようとしている。 互いに助け合い教え合おうとしている。 健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかかわり方を見付けている。 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 球技を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型では、攻防を展開するための安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※上記の「評価規準の設定例」を参考に、各学校で「学習活動に即した評価規準」を作成します。
(単元計画例)

単元名	中学校第3学年 「ソフトボール」										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0	健康観察、準備運動、本時の学習内容の確認										
15	オリエンテーション (単元のねらい・学習の進め方 ・安全指導 ・チーム分けなど) 個人及びチームごと	☆基本技術の練習 (チームごとで課題を見つけながら) ・バッティング練習 ・守備練習 ・走塁練習					★リーグ戦をしよう ・審判、記録係等自分たちで運営 ・9対9の公式ルールを基本とする。				
30		★いろいろなチームとゲーム ・連携した守備を意識して ・常に次の塁をねらう走塁 ・相手の守備位置を考えたバッティング					・ゲーム形式の中での行動観察で、技能評価も行っていく。				
45	単元のまとめ (単元全体を振り返って)										
50											整理運動、片付け、本時の学習の振り返り・次時への課題作り

学習活動例

【単元を通じての目標・合い言葉】

『強い打球を打とう!』
『ベースカバー、バックアップ、中継プレイを意識して守ろう!』

・第3学年では、「安定した打撃により出塁進塁・得点する攻撃」「仲間と連携した守備」のバランスの取れた攻防を目指す。

【ゲームの工夫】 →回ごと、違った状況を設定したスタートにしてみる。ランナー役は、その回の打撃順からさかのぼって配置する。

(例) 1回: ノーアウトランナー満塁から (ランナーは7・8・9番打者)
2回: ノーアウトランナー2塁から (ランナーは前の回の最終打者)

利点: ・打撃が苦手で塁に出ることがあまりない生徒でも、走者の経験ができる。
・塁が詰まっているとき、塁が詰まっていないとき、それぞれの場合の走者の動きや守り方を随時学習できる。

【教師の出番・役割】

生徒が、そのプレイの良さや問題点を理解できていないと判断したら、適宜プレイを中断させて端的に解説を加え、生徒が今のプレイを振り返ることができるようにさせることが大事。ルールが複雑なベースボール型では、その状況になったその場で確認していくことが有効である。